

世代を超えて愛され続ける家……………2面	天然素材で作る和の家庭用品……………4面	記憶の風景を訪ねて「ネパール編」……………7面
胡麻で平和な世の中を実現する……………3面	楽しい!京都ムービング倶楽部イベント……………6面	鶏飼シーズン到来!!宇治へ行こう!……………8面

(3) 2015.6



株式会社わだまんサイエンスの代表取締役社長のほか、一般社団法人日本胡麻協会の理事長も務める。自社商品の開発はもちろんのこと、他社の商品開発や店舗のプロデュースも行う。尊敬する人は、マザーテレサ、永井隆、両親。

胡麻との偶然の出会いが人生を変えるきっかけに

深堀さんと胡麻の出会いは、製薬会社に勤務していた頃でした。大阪の老舗胡麻メーカーから新商品の開発を依頼されたのがきっかけです。

「胡麻は、香ばしくて、食べやすく、おいしい。しかもいい生薬で健康にもいい。胡麻には無限の可能性があると直感しました」

その頃の深堀さんは、どう生きたらいいのか分からずに、路頭に迷っていたそうです。生きるための土台を見つけるために、明確な目的も無くいろいろなことに取り組み日々でした。

「胡麻との出会いが僕の人生を変えてくれ、未来を開いてくれました」

その後、老舗胡麻メーカーに弟



【ゴマゾムリエの手作り金つきたてごま】(500円)は、白ご飯にふりかけて醤油を少し加えて食べるのがお勧め。



【ゴマゾムリエの金の胡麻粉】(500円)は、胡麻の中でも特に香りの高い全胡麻を焙煎し特殊製法により微粉砕したパウダー。調味料として使うのがお勧め。

子入りして勉強し、2006年に胡麻の開発会社「株式会社わだまんサイエンス」を創業、自分の足で走り始めました。

「胡麻を通じて世界平和を」が会社の設立理念です。縁もゆかりもない京都で創業したのは、京都から世界に羽ばたいていきたいと考えたからです。

胡麻のオイルを開発し胡麻のクレープ店も開店

創業してすぐに取り掛かったのが、リグナンリッチオイルの開発でした。

「オイルの原材料になるリグナンリッチ黒ゴマは、ミャンマーのゴールデントライアングル地帯で栽培されています。麻葉が作られています。麻葉が作られています。そこで胡麻を今以上に活発に栽培するようになれば世界平

胡麻で人々に感動を届け、幸せで平和な世の中を実現する

わだまんサイエンスには、社長としてのミッションがあります。「従業員と共に、『胡麻で世界平和』を目指し、共に悩み、共に勝ち取っていく強さを創る」。このミッションを遂行するために日々アクティブに行動する深堀さんにお話をうかがいました。

京都 [human]
大人の宝箱
深堀勝謙

株式会社わだまんサイエンス
代表取締役社長



リグナンリッチオイルをミャンマーで牛に引かせて圧搾するプロジェクトも進行中。

和につながるのではと考えたんです」

このオイルはセサミンの含量が多くサプリメントなどに使用され、需要が順調に増えています。そして2008年には、京都三条会商店街(中京区)に胡麻クレープの専門店「胡麻屋くれえぶ堂」をオープンさせました。

「胡麻の飲食店をしたいと考えていたときに、クレープ店を思いついたんです。クレープは円を描くでしょ。胡麻という愛の種を(縁(円)に包んで渡して食べてもらおう。これはいいなって、それで作りました」

胡麻への愛情と感謝の気持ちで世界を幸せで平和な世の中に

創業当初は、利益は度外視で、胡麻への愛情と直感だけで事業を進めてきた深堀さん。そのため、赤字が続き倒産しかけたこともあったそうです。

「いいと思ったことは、すぐに実行するタイプだったので、やっ



トースト好きのために開発された新商品「ゴマシュガー」。プレーン、シシトマ、シナモン、宇治抹茶の4種類。1種類1本550円、4種類セット2,000円。

<p>京都・ごまの専門店「ふかほり」 中京区御池通堀川東入ル北側 営業:10時~18時(水曜定休) ☎075(241)7741</p>	<p>胡麻屋くれえぶ堂 京都三条本店 京都三条会商店街、三条大宮公園前 営業:10時30分~18時(日曜定休) ☎075(821)3811 ※中京区三条通大宮西入ル姉大宮町西側72-5</p>
---	--

てみて後から青ざめるということが多かったですね。資本金もすぐに底をつき、会社が危なくなつたときは、1年間お昼ご飯は、妻が作ってくれたおにぎり2個だけ、さらに家計は妻が内職をして支えてくれました」

現在は、業績も順調で会社も黒字になり、社員と商品のファンが増えています。

「あるとき、気がついたんです。人間の肉体もお金も平和のために使えばいいんだって。簡単にいえば、他者が幸せになるために働き、他者が幸せになるためにお金を使う。そう考えて行動するように。そうやって、物事が不思議と上手く運ぶようになりました」

現在は、バラグアイとミャンマーでの胡麻加工の事業化に向けて奔走している深堀さん。インタビュー中に何度も出てきた「縁と恩を大事にしていれば運が開ける」という信念が、深堀さんを支え、夢の実現を後押ししている。そう思いました。